



イタリア旅行記 夜の底の旅(4)

2月26日

---



カプリ島はレモンの島。レモンにちなんだグッズがたくさん売っていました。

もちろんレモンのリキュール、リモンチェッロも。

船に乗るのは、わくわくするのに、どうしても恐ろしい。

私は勇気で膨らんだ胸が、実は潮風にあっというまに崩れ落ちそうなことを知っている。

舳の部分に座った。

波は穏やか。

海鳥が断崖の縁を翻る。

カプリ島まで高速艇でやってきて、また乗り換えた船の中だ。

洞窟の前に着くと、さらに小さな小舟に乗り換える。身を屈めて、一気に小さな洞へ滑りこむ。

最初は真っ暗かと思った。

しかし気がつくとも私は青にからめとられていた。

青の洞窟。

底から神秘の光が満ちてくる。

ただただ息をのんで眺めていたのだった。

ガイドさん曰く「こんな商売してて詐欺ちゃうんかなと思いますけど2月に青の洞窟に入れるのは奇跡です。みなさん1年分の運を使い果たしました」。

写真はないです。あまりにも有名だし、よく撮れているのを観光案内で見た方も多いただろう。あのまんまでした。

ちなみにガイドさんに一人でナポリにいかなくて正解だと言われた。本気で治安が悪くて毎日殺人が起きているそうです。

夜はツアーで一緒した親子の2人とおいしく食べました。

レモンの島というのはカプリ島のことで、そこらじゅうにレモンがなる可愛い島。海を眺めながらのシーフードのランチも最高だった。

朝、同室のエレナと涙の別れをして、昨日までの疲労がたまっているのでインターネットカフェでぶらぶら。

11時になってお腹がすいたのでケバブ屋に入る。薄汚れた労働者階級の溜り場でけっこうびびる。ケバブサンドとグラスワインを頼んでおどおど。すると、グラスのワインがあくとどこかの席の男性が注いでくれる。何度空けても注いでくれる。お返しにピッチャーでワインを頼んでみんなに注いでまわる。そんなことを繰り返して多分10杯はワインを飲んだ。めちゃくちゃ楽しかったからお代はいくらかかっても気にしないぜと会計にいくと合計5ユーロ。え！私が頼んだワイン全部男性についたのかな？恐縮。でもさらにカプチーノをおごっていただいた。すごい店だ。日本でもそうだけど、労働者階級は女の子におごるのが美德みたい。日本の高学歴って滅多におごってくれないよね。。楽しいランチタイム。



2月27日

---



夜が窓から侵入してくる。

甘い風となって。

夜の底を目指して。

もうすぐ。もうすぐ届くかも知れない。

そう思って手を伸ばす。届かない？

私は拒絶されているのかと不安になる。

でも、私はさよならなんてしないよ。

今度こそ、

さよならは、

絶対に、

しない。

とても有機的な街にいるせいだろうか。

無機質な文章に惹かれてしまう。

旅に本を一冊も持ってこなかった。

ディスプレイの冷たい文字に体温はない。

夜の風と一緒に教会の鐘の音が届く。

目を閉じる。

近いかもしれない。

こんなに遠いというのに。

でも私は知っているのだと思う。

叶わない。

この気持ちは。

永遠に。

永遠に夜の底に届かないように。



写真はYWCAのドミトリーの、質素だけれど味わいのあった朝食。

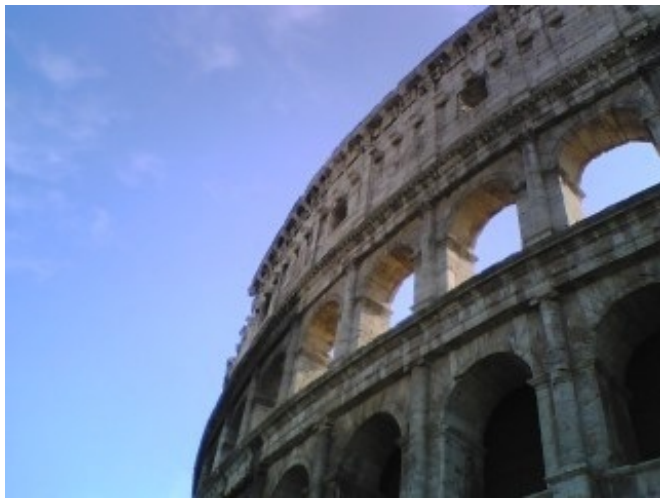
昨夜、同じ部屋に日本の大学生の女の子が2人着いた。卒業旅行で東欧とエジプトを回って、帰りなのだそう。アリタリアを利用したのでローマ1泊になったのだそう。

今は卒業旅行シーズンということで大学生に本当によく会う。勤め人はそもそもこの時期に長い休みなど取れない。会社員になると、お盆とお正月にバカ高く旅行することになる。私の今の職業は旅に出るには便利だと感謝するのだった。幼い頃、母に洋裁を教えられるのは苦痛だったが

、今は厳しく教えてくれたことに感謝するのだった。

まあ会社員はいいお給料をもらうので、高い時期にいけるということもあるよね。私の今のお給料じゃハイシーズンに旅行は無理です。

さて、エジプトのケーキをおすそわけしていただいて、食べながら少しおしゃべりして眠った。彼女たちはエジプト土産に悩んだという。ピラミッド型の置物や象形文字のデザインの小物は、呪いがかかっていそうで、いつか要らなくなっても怖くて棄てられなさそうで、買うのを躊躇したとか。確になあ。



コロッセオを通過して、カラカラ浴場へいくところ。地下鉄でいこうと駅に向かってしていると昨日のケバブ屋の主人とばったり。地下鉄に乗ると言うので、天気もいいし歩け！って勧められ歩いたら確かにあつという間だったし気持ちよかった。ローマはいい天気。コロッセオでひとやすみしたのでそろそろまた出発します

真っ赤に熟れたトマトのパニーニとコカ・コーラ。普段日本でコーラは飲まないが、歩きまわって疲れたときに糖분을補給するのにコーラは手頃。地下鉄でテルミニまで帰り、一旦部屋で休憩している。なかなか丸一日続けて観光する体力がない。少し休んで次はどこへいこうか。長いローマの休日。

2月28日

---



私は諦めたのではなくて、平和的解決を望むだけ。もう好意を伝えない。静かな友好を示すだけ。

あなたが私の狂気におののくのは見たくない。

一週間近く滞在していると近所のたいていの店の呼び込みのお兄さんに覚えられる。イタリア人は日本男子を「サムライ」と呼び、大和撫子を「姫」と呼ぶのが笑える。

椿姫を私はくちずさむ。「あなたをどれほど愛していたか！」

さよならはしないけれど、遠くで近くにさせて。

お願い。





同室のマリカのほかに、ドイツからのフランチェスカやってくる。今マリカは友達に会いに外出中、フランチェスカはバスルーム。



また早く目が覚めてしまう。

みていた夢が遠ざかっていき、もう輪郭も曖昧だ。

ローマの安いレストランテ、トラットリアははっきりいってまずい。アルベロベッロの極上のトマトパスタはローマではきっと食べられないか、私が入ることのできない高級な店にしかないのだろう。昨夜食べたスパゲティはアルデンテどころかのびていた。

魚介類のサラダもぐったりビネガーに沈んでいた。私でももっと上手に作る。

でも食事がまずくてもローマはローマだ。永遠の都。

実は行きANAの中で「ローマの休日」をみてきた。たまたまプログラムの中にあった。私はVHSテープで持っているほど何回も見ている。

あの二人はお別れしたのに全然悲しくないよね。私はそろそろそういう恋を受け入れるべきときだ。



私とその人と暮らすことをイメージしたときに、ぴかぴかのインテリアとお洒落な小物たちに囲まれた部屋であるとき、それは本物の恋じゃないと思ってしまう。

4畳半の部屋でちゃぶだい一つの部屋でも幸せだと感じたら、本気で愛しているのだと判る。

すごくヘンな喩えみたいだけれど、私の中で毎回繰り返されるシミュレーション。



朝。カプチーノにもいい加減飽きてしまい、カフェ・アメリカーノを飲む。

言語は違って、やはり本屋はこころ踊る。日本語の本のほかにこんなにも膨大に読むことのできる小説があると思うと胸が一杯になる。ただし外国語を勉強すればの話。いい機会だからイタリア語の本を一冊買おうかな。

日に焼けたし肌荒れだしひどい顔！今、どんなに素敵な方からデートに誘われても断ると思う。こんな顔じゃ恋なんて生まれえない！とほほ。

さて今日はどこへいこうかな？



今日のローマは雨のち曇り。夜に予定があることだし、午後からは休養にしようと部屋で寛ぐ。

部屋に新しいルームメイト。日本人の大学生の女の子2人組。パリから南下してきたという。私と逆コース。ついた早々時間が惜しいとばかりに観光に飛び出していった。さすが若いなあ后感心。私はベッドの上でごろごろ。

昼は韓国料理を食べた。ビビンバとおかず8種類に味噌汁、デザート。(セットメニューです)。おなか一杯。

店にアンニョンハセヨと挨拶して入ってくる家族連れがいたので韓国人かと思ったら日本人。ああ、たくさんの言語たちよ。臆せず挨拶すれば気持ちが通じあう。和気藹々とした店でとてもおいしく、楽しく食べた。

写真は朝食食べたヨーグルト。上にのっているベリーソースが甘すぎずおいしかった。

3月1日

---



昨晚は、マイミクの素敵なお嬢さんとローマでお食事。たまたまローマ滞在の時期が重なって、初めてお会いするのがローマという素敵な計画がもちあがった。

そのお嬢さんはすごく頭のよい、それでいて感性豊かな日記を書かれるのだが、実際会うとほんわりとやわらかなあたたかみのあるお嬢さんだった。

向こうも私のことを書く文章からイメージしていたよりソフトな感じがすると仰ってくださり、互いにネットの文字のイメージとは異なることに笑いあうのだった。

待ち合わせ場所に一時間早くついたら、お嬢さんと彼女のお友達もついていて、互いにほぼ一目で分かりあう。世界の果てでこんにちは！

彼女たちがリサーチしてくれたお店が本当においしくてたくさん食べた。互いに共通のネットの知人の話など楽しくおしゃべり。

食事のあとはジェラートを食べながら夜のローマを笑いながら歩く。素敵な瞬間！

本当に素敵な時間をありがとう。また日本でも飲みましょう！

あー、楽しかった。

夜のトレヴィの泉が美しくライトアップされ、幾重にも光線と影が錯綜する。ローマの夜の喧騒はどこかやわらかく、大学生のお嬢さんお二人のはにかむような優しい笑顔が夜景に溶けて、きっとこのシーンは絶対忘れないと私は軽く酔った頭で思った。乱反射するローマの夜は明るくて、私たちの笑い声が祝福されてこだまする。カクテル色の夜が瞼に滲んで拡散する。ローマ最後の夜はこうして美しく幕を閉じた。今日の夕方にはパリに向かう列車に乗る。



ナポリツアーで一緒して、夕飯をご馳走していただいたA氏からメール。退職したお父様とお二人の旅をしていらっしゃった素敵な男性。お父様もダンディーでいらっしゃる。A氏親子はレンタカーでローマからフィレンツェにドライブされたが、明日はパリに向かい最終日なのだそう。最後の晚餐を男二人で食べても味気無いということで明日やはりパリにつく私を再び食事に誘っていただいた。ローマでは私が安い中華に案内してしまったのだが、明日はちゃんとした店で食べましょうとのこと。うわー。私、コ汚い洋服しか持っていない。というわけで、急遽駅のファッションビルでお買い物。ひとめ惚れしたワンピースは皺にならない材質だったし、安かったのをお買い上げ。ストッキングも買う。靴が問題だけど慣れないヒールは避けたいところ。しかも気に入ったものがない。靴だけは今履いている革靴じゃおかしいかなあー。とても楽しみなお誘い。お洒落するのも久しぶり。